
母の日制作を通して見た保育園における制作活動

清水郁太郎 砂田さゆり

I. はじめに

子どもはその成長発達の過程で多様な経験をし、さらにその時の周囲の大人の適切な関わり方によって豊かな人格形成がされる。そのため保育園でも様々な活動を取り入れていて、絵画・造形制作もその一つである。そこで保育士は、子どもが新しい技法を体験をする楽しさや完成の喜びなどを感じ、活動を通して自主性がはぐくまれるよう考慮しながら制作内容を決め保育に取り入れている。その内容は日常的な自由制作と共に、年間計画として季節や園の行事に合わせ設定した物も多い。

この制作内容の設定においては保育士はどのようなことを考え、テーマや材料・使用する道具を決めているのだろうか。それをどのように子どもたちに取り組みさせているのだろうか。またそこで抱えている課題は何だろうか。本研究では保育士と家庭との関係にも注目し、家庭との関連が強いと思われる制作テーマとして「母の日制作」を中心に保育園での制作の状況を調査し、子どものための絵画・造形制作を考えるうえでの諸課題を考察したい。

II. 調査方法

- a. 調査対象：札幌市内の保育園 計 82 園
- b. 調査期間：平成 23 年 7 月 23 日から 8 月 20 日まで
- c. 調査方法：アンケート調査
- d. 調査内容：
 - A. 母の日父の日制作に関すること
 - ①母の日父の日制作の課題(図や文で説明)
 - ②その課題を選んだ理由
 - ③使用した材料
 - ④使用した画材
 - ⑤使用した道具・副材料
 - ⑥材料選択の理由
 - ⑦母の日父の日制作のねらい(技術面, 情操面)
 - ⑧母の日父の日制作に関する保護者対応について(作品の説明, 説明の内容)
 - B. 日常の描画活動について
 - ①年間の描画活動の実施状況(観察画, 経験画, 自由画, 想像画, イメージ画, 表現遊び, 臨画)
 - ②描画の設定保育で子どもに伝えていること
 - ③描画の設定保育で子どもに言わないようにしていること
 - ④描画の設定保育で困っていること
 - ⑤困っていることへの対応

【アンケート用紙】(A 4 サイズ両面印刷 1 枚)

母の日・父の日制作を中心とした子どもの描画活動に関するアンケート

調査者：札幌大谷大学短期大学部専攻科保育専攻2年 砂田さゆり 指導教員 清水郁太郎
 回答期間：平成23年8月12日までをお願いします。

◆該当するものにV印をつけて下さい。複数ある場合、いくつでも印をお願いします。
 記述回答の欄は、可能な範囲で記入をお願いします。

A. ご担当のクラスについて

貴園はどちらですか？	<input type="checkbox"/> 幼稚園	<input type="checkbox"/> 保育園			
担当されているクラスの年齢	<input type="checkbox"/> 2歳	<input type="checkbox"/> 3歳	<input type="checkbox"/> 4歳	<input type="checkbox"/> 5歳	<input type="checkbox"/> 異年齢混合クラス
母の日・父の日制作をされましたか	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ			
母の日・父の日制作をしなかった場合	その理由		※最後のEについて回答をお願いします		

B. 母の日・父の日制作の内容について

母の日の制作内容 (文章・図などで)	父の日の制作内容 (文章・図などで)
この制作を選んだ理由	この制作を選んだ理由
使用した主な材料 <input type="checkbox"/> 白画用紙 <input type="checkbox"/> 色画用紙 <input type="checkbox"/> 折り紙 <input type="checkbox"/> 厚紙 <input type="checkbox"/> ダンボール <input type="checkbox"/> 牛乳パック <input type="checkbox"/> ティッシュ箱 <input type="checkbox"/> 空き箱 <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> 模造紙 <input type="checkbox"/> 布 () <input type="checkbox"/> 既製品を利用した (例:鉛筆立てに絵を貼った、白いエコパックに絵を描いたなど) 内容→() <input type="checkbox"/> その他 ()	使用した主な材料 <input type="checkbox"/> 白画用紙 <input type="checkbox"/> 色画用紙 <input type="checkbox"/> 折り紙 <input type="checkbox"/> 厚紙 <input type="checkbox"/> ダンボール <input type="checkbox"/> 牛乳パック <input type="checkbox"/> ティッシュ箱 <input type="checkbox"/> 空き箱 <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> 模造紙 <input type="checkbox"/> 布 () <input type="checkbox"/> 既製品を利用した (例:鉛筆立てに絵を貼った、白いエコパックに絵を描いたなど) 内容→() <input type="checkbox"/> その他 ()
使用した画材 <input type="checkbox"/> クレヨン <input type="checkbox"/> クーピーペンシル <input type="checkbox"/> 色鉛筆 <input type="checkbox"/> 細い水性ペン <input type="checkbox"/> 太い水性ペン <input type="checkbox"/> 細い油性ペン <input type="checkbox"/> 絵の具 <input type="checkbox"/> 鉛筆 <input type="checkbox"/> 使用していない その他 ()	使用した画材 <input type="checkbox"/> クレヨン <input type="checkbox"/> クーピーペンシル <input type="checkbox"/> 色鉛筆 <input type="checkbox"/> 細い水性ペン <input type="checkbox"/> 太い水性ペン <input type="checkbox"/> 細い油性ペン <input type="checkbox"/> 絵の具 <input type="checkbox"/> 鉛筆 <input type="checkbox"/> 使用していない その他 ()
使用した道具・副材料 (子どもが使った☑ 準備や補助として保育者が使った☐ 両方☑) <input type="checkbox"/> のり <input type="checkbox"/> はさみ <input type="checkbox"/> セロテープ <input type="checkbox"/> 両面テープ <input type="checkbox"/> ギザギザはさみ <input type="checkbox"/> はんこ (スタンプ) <input type="checkbox"/> カッター <input type="checkbox"/> 穴あけパンチ <input type="checkbox"/> 型抜きパンチ (クラフトパンチ) <input type="checkbox"/> はんこ (スタンプ) <input type="checkbox"/> リボン <input type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> その他 ()	使用した道具・副材料 (子どもが使った☑ 準備や補助として保育者が使った☐ 両方☑) <input type="checkbox"/> のり <input type="checkbox"/> はさみ <input type="checkbox"/> セロテープ <input type="checkbox"/> 両面テープ <input type="checkbox"/> ギザギザはさみ <input type="checkbox"/> はんこ (スタンプ) <input type="checkbox"/> カッター <input type="checkbox"/> 穴あけパンチ <input type="checkbox"/> 型抜きパンチ (クラフトパンチ) <input type="checkbox"/> はんこ (スタンプ) <input type="checkbox"/> リボン <input type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> その他 ()
キット教材を使用した →()	キット教材を使用した →()
材料選択理由 優先度の高いものから記号で 【高→ 低】 a 出来栄 b 子どもが作りやすい c 予算 d 親の希望 e 保育者の負担減 f 子どもの表現の自由度 g その他 ()	材料選択理由 優先度の高いものから記号で 【高→ 低】 a 出来栄 b 子どもが作りやすい c 予算 d 親の希望 e 保育者の負担減 f 子どもの表現の自由度 g その他 ()

裏面の記入をお願いします

C. 母の日・父の日制作のねらいなどについて

材料の準備、導入や制作中の言葉かけなどを通して、この制作で重視していることはどのようなことですか？

- ①子どもの制作技術の面で（例：のりが上手に使える。色の使い分けを工夫する。作業のていねいさ。など）
- ②子どもの情操面で（例：母親に対する子どもの愛情を表現する。父親が昼間どんな仕事をしているか意識させる。など）
- ③その他、特に気をつけていることがあればお願いします。（例：制作中にこのようなことは言わないようにしているなど）

D. 母の日・父の日制作に関する保護者対応について

①制作したものについてその説明は保護者に対してどうされましたか？

- 送迎時に口頭で伝えた 園便りなどでクラスの家庭に共通の内容を伝えた 連絡帳などで家庭ごとに個別にコメントした 参観日などで園内に作品を展示しその説明と一緒に掲示した 特に説明はしていない
- その他（ ）

②伝えた内容はどのようなことですか？

- 「母の日のプレゼントです。」などと言 制作物の内容・用途などを説明 子どもの制作の様子を報告
- 特に説明はしていない その他（ ）

E. 子どもの描画活動全般について

①昨年の子どもの描画活動の実施状況について、以下から一番近いものを選び、分類別に記号でお答え下さい。

0. 実施していない、A. 年に1回、B. 年に2～3回、C. 月に1回、D. 月に2～3回、E. 週に1回 F. 週に2回以上

昨年担当した年齢	分類	説明・例	実施回数（記号で）
<input type="checkbox"/> 2歳 <input type="checkbox"/> 3歳 <input type="checkbox"/> 4歳 <input type="checkbox"/> 5歳 <input type="checkbox"/> 異年齢混合 クラス <input type="checkbox"/> 担当なし	観察画	「野菜、花、動物」などを見ながら描く	
	経験画	「運動会の思い出」など	
	自由画（設定）	設定保育の時間内、保育者による条件無し	
	自由画（自由）	自由保育の時間内、保育者による条件無し	
	想像画	「未来の国」など	
	イメージ画	物語などを保育者が話し、幼児が絵を考える	
	表現遊び	デカルコマニー、はじき絵、スタンプングなど	
	臨画（りんが）	手本の絵をまねて学ぶ	

②設定保育の中で、絵画制作を行う際に子どもたちに伝えていることは、どのようなことですか？

a. 必ず伝えていること

b. 言わないように気をつけていること

③設定保育の中で、絵画制作を行う際に何か困っていることはありますか？

④困っていることに対してどのような対応をされていますか？

質問は以上です。ご記入いただきありがとうございました。
同封の返送用封筒をご使用になり、他の年齢の回答用紙と共に8/12までに投函お願いいたします。

III. 結果の分析と考察

調査内容として危惧されていたことではあったが、保育園ではひとり親家庭の子に配慮し母の日、または類する内容の制作を行っていないという園が半数以上あった。しかし調査項目の中で、日常の制作についての考えや、取り組みの内容については多くの回答があったのでそれを基に考察したい。

1. 母の日・父の日・家族の日制作の内容(以下、「母の日制作」と省略)

母の日・父の日制作を行っていないという園が半数以上あった。理由のほとんどは「ひとり親家庭の子に配慮して」というものである。他に「子どもの自主的な制作を重視する」という理由で設定したテーマでの制作自体行わない園、「ほかの活動を優先したため行わなかった」という園がそれぞれ数園あった。実施した園の一部で母の日ではなく「家族の誰かに感謝する日」という形態をとっていた。

母の日・父の日制作を実施していた園の制作内容を分析した。

a. 内容面の特徴

図1のように年齢による違いがみられた。2歳では飾る物、3歳では使う物、4歳では母の顔の絵を取り入れた使う物、5歳では母の顔の絵を取り入れた物の合計が一番多かった。

- ①飾る物の具体例はにじみ絵、ちぎり絵など表現遊びを取り入れた物などが多く、一部で紙粘土を使用していた。制作作業の楽しさを優先した内容といえる。絵が思うように描けない子に対する配慮という面もある。
- ②使う物はペン立て、ハガキ入れ、タオル掛け、しおり、コースターなど身近な実用品で子どもが作った物が生活の中で目に留まりやすいようにというねらいがある。
- ③上記の装飾性や実用性のあるものでも母の顔の絵を取り入れた物は別に分類した。絵は年齢が上がるに従い思うように描けるようになるので多く取り入れられるようになる。母の顔の絵そのものを生かすべくシンプルに仕上げる方法と、装飾や実用性などを加える方法のどちらにするかは園の考え方による違いとなって表れた。

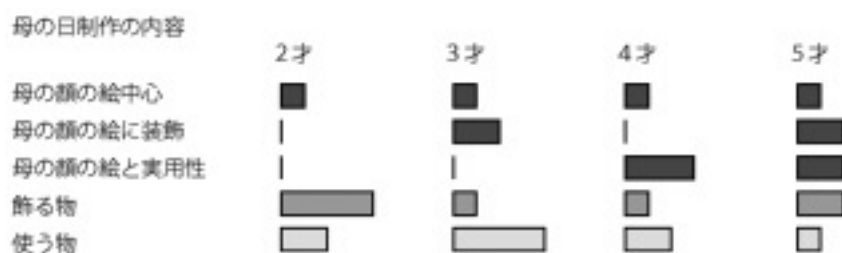


図1

b. 技法上の特徴

図2のように年齢による違いがみられた。作るものによる道具の違いはあるものの、年齢に応じた一定の特徴がみられる。高い年齢ほど多種の用具を同時に使っている。

- ①2歳3歳で絵具が多いのは、表現遊びとしてスタンプ・はじき絵・にじみ絵などを行うことが多かったためと考えられる。5歳では絵具を描画の材料として筆で描いているので技法としては違う性質を持つ。
- ②ペンは絵具と同様に低い年齢では模様の色をつける目的、高い年齢では絵を描くために使われている。
- ③クレヨンには絵を描く画材として最も広く使われている。特に描画活動が盛んになる4歳で多い。5歳ではペンや色鉛筆など、より細かい表現ができる画材に移行してきている事がわかる
- ④のりは作った物に装飾するために、低い年齢では保育士が切った色紙、高い年齢では自分で切った色紙などを貼ることに多く使われている。
- ⑤はさみは保育士が安全性を重視するため年齢に応じて使う数が多くなっているが、何歳で使うかは園の考えの違いが表れている。年齢が上がるに従い意図的な形を切って使うようになる。



図2

c. 材料選択の理由

母の日制作の材料を選んだ理由を優先度の高い順に選択した結果について優先度1位を3点、優先度2位を2点、優先度3位を1点で各項目の合計点を図3のようなグラフにした。作りやすさがどの年齢でも最優先である。予算や親の希望という理由は1部で見られた。保育者の負担減については予想に反してほぼ皆無であった。

年齢による違いが見られたのは、「出来栄え」は年齢の低い子どもの場合で、子どもができない分を保育士が手をかける事によりそのような意識が働くと考えられる。一方年齢が高くなるほど子どもができる事が増え、材料の選択の上でも子どもの自由度を優先するようになると考えられる。

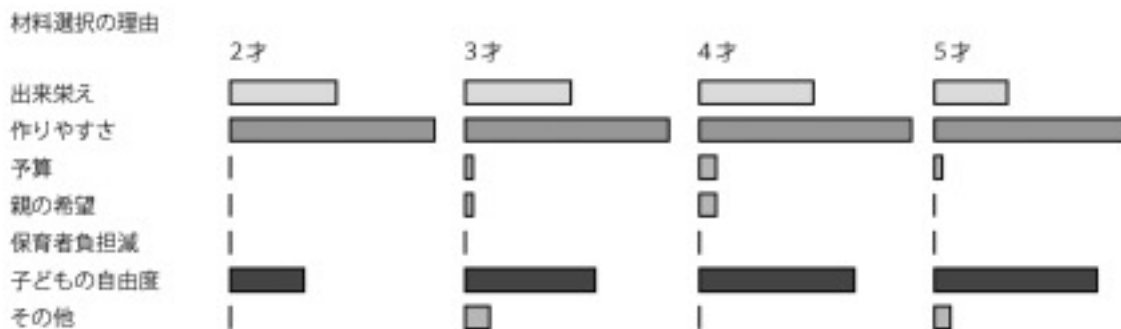


図3

2. 母の日制作のねらい

a. 技術面のねらいの特徴

技術面のねらいについての自由記述による回答を図4のような項目で分類した。母の日制作を実施している園でも2歳は行っていないという園もあった。年齢に応じ段階的に高度な技術の習得を意識している園と、子どもの気持ちや満足度、個人差などに対する考慮を優先している園があった。

- ①体験優先・感触を楽しむ。2歳児で制作を行う場合、内容も絵具遊びや手形のスタンプなど単純な作業で感触や色形の変化が楽しめるように考えて実施していた。
- ②顔の描き方。母の日制作では母の顔を一部または全体に描く制作が半数ほどあった。顔の描き方については年齢に応じ段階的に「顔の各部を意識させる→それぞれのバランスを考えさせる→適した形・色を考えさせる」と細かくアドバイスしている園と、気持ちの上で「お母さんが〇〇している顔」などと意識させるだけで細かい点は自由にさせている園があった。
- ③道具の説明。これは3歳児の制作で大半の園がねらいとしている。ちぎり絵や簡単な切り落としの作業など、のりやはさみを少し体験できる内容の制作を多く取り入れている。
- ④道具を上手に。4歳5歳で道具の少し高度な使い方ができるように材料や制作の内容を考慮している。のりであれば「端のりと全のりの違い、均一に塗るように」。はさみで「線の通りに切る」。色を考えて塗る。など。
- ⑤丁寧さ。道具の上手な使い方と近い考えだが、技術的にははできるはずなのに気持ちの上で雑になってしまうことに対する対応である。特に母の日制作ということで「母への気持ちとして、丁寧に作るように」というねらい

いが多くみられた。年齢が高くなるに従い制作のねらいとして重視されている。

- ⑥自主性・満足感。個々の子どもによる取り組みのペースの違いを考える。子どもの自主性や個性、苦勞してもできた時の達成感などを大事にする。などという回答である。これは制作に限らず保育の上で重要なことであり、技術面の向上ばかり考えると時には反する場面もあり得る。
- ⑦一部の園に文字が書けることをねらいとしている制作があった。

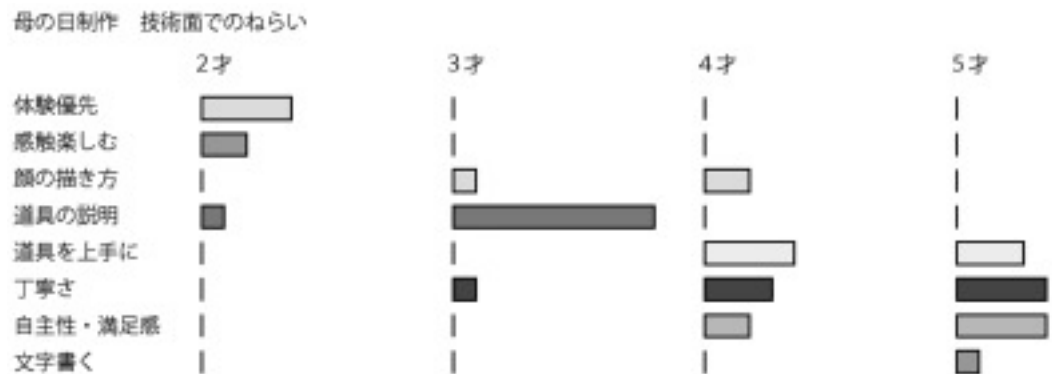


図4

b. 子どもの情操面のねらいについて

母の日制作における子どもの情操面のねらいについて自由記述の回答を得た。「母への感謝」を意識させる、作品に表現する。という回答が大半で、年齢によるちがいはあまり見られなかった。2歳児について、「できたらお母さんにあげようね」という言葉がけにとどめるなどして「感謝」の意識はまだ難しいのでは？という回答が一部あった。

特筆すべき例として、作品を単に「プレゼント」とせず、【牛乳パックで植木鉢を作り、親と共に発芽を待つ気持ちを共有してもらう】という**交流重視**のねらいがあった。

c. 制作で気をつけていること

母の日制作で気をつけていることについて自由記述で回答を得た。最も多かったのは、①「否定的な言葉を使わない」(ダメ、違う、下手など)。次は、①と組み合わせられたものと言えるが②「自由な表現を認める」である。他には③「頑張ったらほめる」、④「せかさない」なども多くあった。

一部の回答に⑤「制作の喜びに保育士が共感する」⑥「子どもの意図をくみ取り、導く」。などがあった。これらは子どもと深い関わりが必要になるが、子どもの制作は結果的に作品ができればよいというだけでなく、その過程に重要な思考や気持ちの働きがあり、喜びや成長が常にあるはずなので、一人ひとりの子どもに合わせ⑤や⑥の取り組みができればよいと考える。

3. 母の日制作に関する保護者に対する対応

a. どのように伝えたか

母の日制作で子どもが制作した内容について保護者にどのように伝えたか、選択形式で回答を得た。年齢別の集計結果が図5である。

- ①多くの保育士が送迎時に口頭で伝えている。
- ②園便りは主に定期的な物と考えられる。この場合個々の子どもの様子ではなく全体の取り組みとして伝えることになる。
- ③連絡帳はごく一部で使われていた。この場合は子どもの取り組みを個別に伝えることができる。
- ④年齢の高い子どもについてみられた例だが、参観日で作品について展示し、一部では子どもの取り組みについてコメントを添えるという形が取られていた。
- ⑤その他としては園に設置された掲示板に記入し伝える。が多かった。わずかな例だが子どもが自分で伝えるよ

うに指導したというものがあつた。

母の日制作について 保護者にどう伝えたか

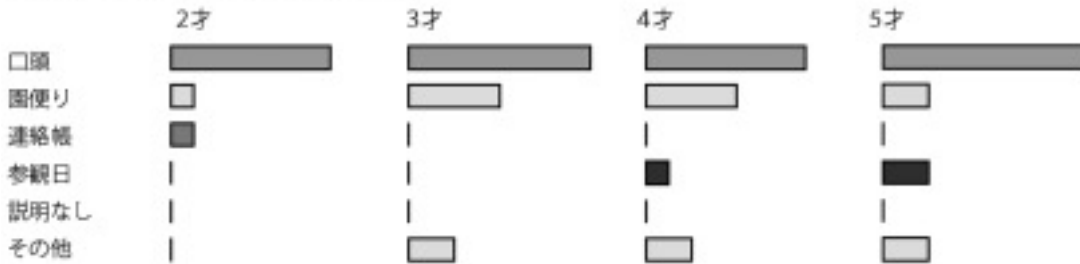


図5

b. 伝えた内容

母の日制作で子どもが制作した内容についてどのような内容で伝えたか、選択形式で回答を得た。年齢別の集計結果が図6である。

- ①「簡単に一言で」が2歳と5歳で多いのはそれぞれ別な理由で、2歳は作ったものが簡単だった。5歳は子どもが自分で説明できるので。と考えられる。
- ②用途の説明も年齢が上がるに従い子どもができるということで少なくなっていると考えられる。
- ③制作の様子を報告が年齢が上がるに従い多いのは、子どもの思いが多く込められているからだと考えられる。
- ④その他はここでは特記すべきことはない。

母の日制作について 保護者に何を伝えたか

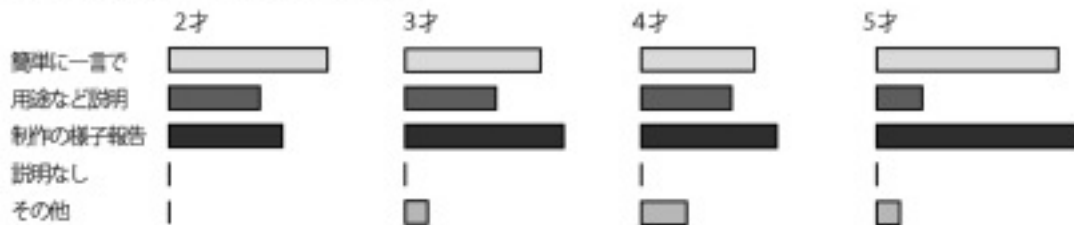


図6

4. 描画活動全般について

アンケート結果より、描画活動別の年間の実施頻度と実施した園の割合を年齢別にグラフ化した(図7～図10)。描画活動の種類や年齢に応じて選択し実施されていることが分かる。

a. 昨年の描画活動の内容と頻度

- ①自由画(自由時間内)。3歳児～5歳児では半数以上の園で週2回以上と回答。2歳児では用具を自分で準備できないことが多いので他の年齢より少ないと考えられる。
- ②自由画(設定保育内)。3割程度の園で年齢に関わらず月に1回程度、設定保育内の自由な描画活動が行われている。予定外に天候が悪くなった場合の時間の使い方などとして考えられる。
- ③表現遊び。2歳3歳で特に多い活動である。表現活動の楽しさを体験し、道具に慣れるための段階で保育士の準備や工夫によって、簡単な作業から始まり徐々に子ども工夫やイメージの表現へ発展していく。年齢が上がるとさらに高度な技術の物や大型の物が行われる。
- ④経験画。行事の開催などに合わせ低い年齢では年に数回、高い年齢では月に1回程度行うという園が多い。
- ⑤イメージ画、想像画。4歳、特に5歳で行われる。他の描画活動に比べて少ないが想像力や言語能力が急速に発達する時期に、このような描画活動は情操面を高める上でも重要である。
- ⑥観察画。これも4歳～5歳にかけて行われるようになる。自然物などに興味を持ち表現力も増してくるので描

く力だけでなく見る力も養う描画活動である。

⑦臨画(りんが)というのは写し絵である。園や保育士の方針によっては重要視されないが、絵が苦手と感じる子どもの気持ちの切り替えとして用いることが考えられる。

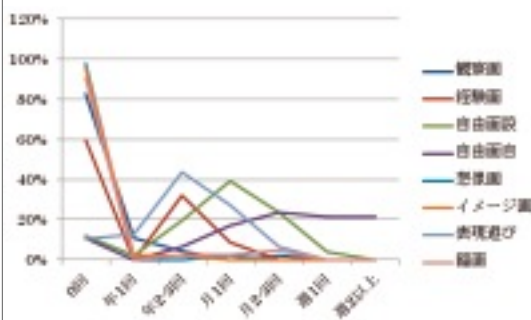


図7 描画活動別の実施頻度と実施園の割合(2歳児)

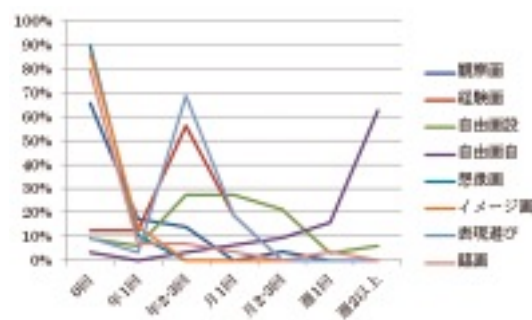


図8 描画活動別の実施頻度と実施園の割合(3歳児)

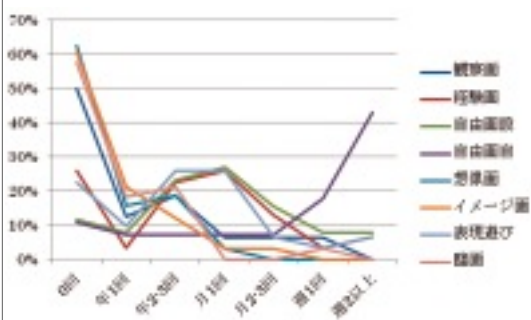


図9 描画活動別の実施頻度と実施園の割合(4歳児)

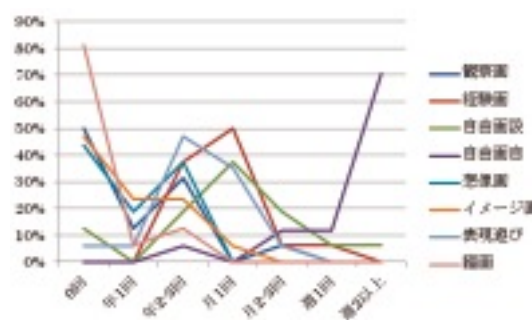


図10 描画活動別の実施頻度と実施園の割合(5歳児)

b. 設定保育の制作で保育者が特に伝えること

- ① 2・3歳は「用具の使い方について」が最も多い。4歳になると同類の言葉として「片づけについて」が加わる。
- ② 全体的には「自由に描かせ、良いところを褒める」が多い。
- ③ また発想を促すために「子どもの話を聞く」「保育士が「きっかけになる話をする」などが次に多い。
- ④ 自信がなさそうな子どもに対し「のびのび描く」「何色で描いても良い」「ゆっくり描く」など、緊張を解くような言葉が見られた。

c. 設定保育の制作で保育者が言わないようにしていること

- ① 最も多いのが制作の中で子どものやったこと、やろうとしてる事に対するダメ、違うなどの「否定的な言葉」。この言葉はやる気や自由な発想を非常に妨げることになる。
- ② 次は「規制する言葉・押し付ける言葉」これも前項と同様、子どもを委縮させてしまうであろう。実物と違う色や配置など。つい大人だと口をはさみたくなる場面があるが、その気持ちを抑えて見守ることが肝心である。
- ③ 「上手と言わない」という回答が興味深い。つまり絵に上手下手があるという価値観その物を持ち込まないということである。子どもの絵を誉めるときは具体的に良い点を挙げるべきであろう。
- ④ その他少数あった回答の「せかさ言葉」「何描いている?」というのもの、時には子どもの自由な発想や意欲をそぐことになると考えられる。

d. 困っていること。

- ① 最も多いのはいわゆる「描けない子」である。原因はさまざまに考えられる。発想の段階でつまづいていたり、比較・評価されることに抵抗を感じていたり、何か与えられた条件が気に入らなかつたり。など。

- ②つぎは「他児の真似をする」。描けないが描かなければならない。という状態をなんとか脱するためであるかもしれないし、本当にその他児の絵が気に入ったということも考えられる。
- ③他には「単色塗り」。黒・赤などすべてその一色で塗りつぶす。
- ④子どもによる「取り組みの早さ・深さの違い」。これは集団保育の宿命であるかもしれないが、保育士は出来ればじっくり取り組ませたいと感じている。

e. 困っていることに対する対処(上記dの①～④に対する回答)

- ①描けない子、描く気が起きない子に対しては、子どもの話をたくさん聞き、その中から子どもの興味のあることを見出しイメージの湧く助言をするという回答が多い。外的な要因で気が散っている場合、たとえば別な遊びが近くで行われているなどは場所を放す・分ける等の対応がある。興味深かった回答は「楽しい経験を沢山させる」。絵をいかに描かせるかという考えではなく、「子どもが何を感じて何を表現したいと思うか」という原点に帰るわけである。
- ②「真似」については回答が分かれた。一方は、真似をなるべくしないように言葉掛けをする。特定の子を真似る場合は席を放すなどというものである。他方は、多少の真似は容認してその中に少しでも自分らしさを入れるようにさせる。という考えである。制作とは別な場面でその子どもが自分らしく頑張っている時にたくさん誉めるという回答もあった。単に真似はだめと言うよりも、このように多方面からその子どもに自信を持たせ、発想する楽しさに気付かせるのが良策であろう。
- ③回答の中には「色々な色があるときれいだね。と声を掛ける」等あった。しかし大半の単色塗りについては筆者は1次的なものとする。特に色彩の識別機能が発達する3歳から4歳ころにはまだ微妙な見分けの出来ない色があったり、特定の色に興味を持ったりするので、問題ないのではないか。(ごくまれに色覚障害という可能性がある。)
- ④取り組みの早さ・深さの違い、これは保育の色々な場面で起こり得るが、特に設定保育においては悩みの種の定番といえよう。時間のかかる子に対し他の保育士が補助的に関わるという回答。早い子に対しもう少し取り組むことによる新たな楽しさを伝える等という回答があった。じっくり取り組みたい子に対し別な時間を用意するという回答もあった。制作は単なる作業ではなく、子どもにとって様々な発見や成長そのものであるため、効率だけを単純に考えられるものではない。日常の自由制作の時間との関係も考慮すべき点である。

IV. まとめ

母の日制作を中心に日常の制作も含め、保育園における制作活動について様々な面からその特徴を見てきた。保育園は生活することが基盤となっているためか、制作に関しても課題を多く設定せず子どもの自由な発想や自主的な取り組みを重視している様子がうかがえた。制作は個人差の出やすい活動であり、保育園は幼稚園に比べ年齢層の幅が広く、また異年齢混合保育も行われているため保育士の考慮すべき点は多くある。しかし、見方を変えれば年数的にも1日の時間としても時間を掛けた子どもの取り組みを考えられるという点では、様々な視点から工夫の出来る可能性があると考えられる。年齢に応じねらいや取り組み方法を変えて、子どもの自主性や発想の豊かさをはぐくみ、物を作り出す楽しさを伝えるこのような保育園の取り組みについて、母の日制作とはまた違う観点で研究の機会を得たい。

V. 参考文献

「子どもの描画活動～母の日父の日制作を中心に」(…幼稚園の取り組みについて) 砂田さゆり(2011年札幌大谷大学専攻科保育修士論文)